

## ヒメキンチャクフグの体色パターンの違いは雌雄差？

○園山貴之

(下関市立しものせき水族館)

ヒメキンチャクフグ *Canthigaster compressa* は、フグ目フグ科キタマクラ属に属する。キタマクラ属は日本で 11 種、世界で 38 種が知られている。体は側偏し、横断面は上下に長い楕円形を呈する。後頭部から背鰭基部までの体背面が盛り上がり、隆起を形成する。吻は延長し、横から見ると三角形を呈するなどの特徴から、他のフグ科魚類と区別できる。キタマクラ属に限らず、フグ科魚類は体が柔軟で、消化管に膨張囊があるため、標本の状態によっては体形が変わりやすいことから、測定形質はあくまでも目安にしかならないとされている。そのため、種同定はほとんどが体色や鰭の色彩によるものである。キンチャクフグ属の雌雄差は一部の種について報告されているが、本種では見当たらない。しかし、外見で体色のパターンを 2 パターンに分けることができ、それが雌雄差である可能性が示唆されたため報告する。

業者より購入した本種を用い、体色により縞模様の多い個体をストライプ模様、斑点模様の多い個体をスポット模様とし区別した。その内、ストライプ模様 2 個体、スポット模様 2 個体を選定して 60L 水槽 (600×290×360H mm) に収容し、30 分間行動を観察した。飼育下で死亡した個体は、体色のパターンと肉眼で生殖腺を確認し、雌雄判別を行った。

飼育実験の結果、ストライプ模様同士は、互いに体側誇示行動、攻撃行動が多く、ストライプ模様とスポット模様同士は、一方的な体側誇示行動のみで、攻撃行動はほぼ認められなかった。スポット模様同士は、体側誇示行動ほぼなく、攻撃行動少ない、もしくはなかった。また、解剖した結果、ストライプ模様の個体はいずれも雄、スポット模様の個体はいずれも雌であった。

雌雄差が判明しているキタマクラは、雄が雌に対して体側誇示行動をしながら求愛することが知られているが、その際雄からの攻撃的な行動は伴わない。キタマクラの求愛行動と同様な組み合わせは、ストライプ模様の個体とスポット模様の組合せであり、解剖の結果、雌雄の組み合わせであることから、求愛行動と考えられる。行動観察、解剖の両方の結果から、ヒメキンチャクフグの体色の模様の違いは雌雄差である可能性が示唆された。

キタマクラ属は雄が縄張りを持っていることが知られており、小型水槽内で雄同士を同居飼育させると闘争が起きる。そのため、雌雄判別が可能であれば闘争を極力避けることができ、同居個体を選別する際に重要であると考えられる。